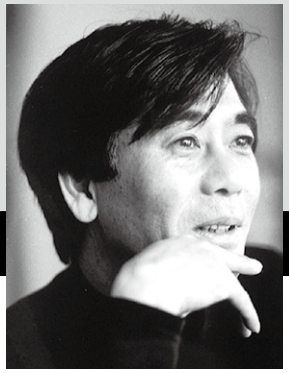

作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、㈱日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『ファーストクラスの心配り』、『あなたの人格以上は売れない!』(プレジデント社)、『成「幸」学』(講談社)、『出過ぎる杭は打ちにくい!』(サンマーク出版)、『面白くなくちゃ人生じゃない!』(ロングセラーズ)、『小説・球磨川』(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.3percent-club.com

21世紀だ！ ―――― 人生・農業リセット再出発 186

ポルトガルと日本

“ここに地終わり、海始まる”と詩人が言うように、ヨーロッパ大陸がポルトガル西端にあるロカ岬の絶壁で終わると、いきなり眼下に広がる大西洋が水平線へ霞み、新大陸アメリカ発見へ夢の幕開け舞台になる。「アリガトーとオブリガートは同じ意味、語源は日本語から来たんだよ!」と首都リスボンで言われる。笑って信じない私に、「日本が初めて出会った西洋はどこの国だい? 織田信長時代前の1543年に種子島に鉄砲を持ち込み、キリスト教伝道を始めたのはポルトガルだよ!」と。

レストランのメニューに驚いた。イワシなど焼き魚が次々に皿に盛られて出てくる。その時代からの日本文化輸入だと説明される。30年の国際線乗務経験で、日本以外で焼き魚を食べるのはアジアとヨーロッパを結ぶボスポラス海峡のイスタンブールでしかなかった。フランスパンに丸ごとの焼き立てサバを挟んで歩きながら頬張る。じつに豪快でうまいが、中国人も朝鮮人も歴史的に焼き魚料理はしない。米国の高級邸宅街に住んでいた日本人商社マンの家族が退去させられた事件があった。近所が焼き魚の強烈な臭いと漂う煙が我慢ならないと消防車まで出動させる騒ぎになった。煮る・蒸す・炒める料理法はあるが、直火で魚を焼くのは世界的に奇異で極めて野蛮なのだ。

ポートワインで知られる港を意味するポート。それがポルトガルになるが、面積は日本の4分の1、国の人口は東京都とほぼ同じ1,065万人。マカオや広大なブラジルを植民地にしていた大航海時代の大国である。イタリアを思わせる快適な陽気と抜けるような青空の美しさだが、日本からは直行便もなく、ついに日本人には一人も会わなかったほど遠い国になっていた。目立ったのは、空港の到着口に中国語だけで大書した大きすぎるほどの別荘地不動産広告があったことだった。「日本語のカッパはポルトガル語だよ、宣教師が着ているガウンが雨ガッパになり、頭のベールが皿みたいだから、それが河童(かっぱ)の姿になる!」

長い歴史交流で生まれた文化に違いないが、挙げられた語源の数々は知らなかったものが多い。ブランコ、ビスケット、ボタン(釦)、カボチャ・ボブラ、かるた・カルテ、カステラ、コンペイトウ、コップ、ジュバン(襦袢)、ジョウロ(如雨露)、ミイラ、シャボン(石鹸)、タバコ、てんぷら、キャラメル、ビロード、フラスコ、オルガン、ロザリオ、ビードロ(ガラス、ビー玉)、パン……。

オンブはポルトガル語で肩のこと、タントは、たくさんという意味だとか。ピンからキリまでのピンは点(ピンタ)、サイコロの数字一で初めや最上級を表し、キリは十字架から十を意味して終わりや最低を言うとか。京都の花街・先斗町(ぽんとちょう)も、地点の終わりや橋を表すポントから来ているとか。オイチョはオイト、英語のエイトと同じで、「おいちょかぶ」のカードゲームになる。語源から離れてほとんど日本語として一人歩きしたものもある。たとえばメリヤスはメイアスが語源で靴下の複数を言い、おそらく当時の靴下の布地がそのままメリヤスという生地名になっている。

ふだん何げなく使っている言葉は意外と深いところから来ていて、調べるとどんどん楽しくなる。ただ母音を多用するラテン語圏では日本語に似た言葉は多いが、意味はまるで違うことも多い。隣国のスペインとポルトガル語はほぼ同じだが……バーカ(牛)、アホ(ニンニク)、カサ(家)などは笑ってしまう。オジャ(鍋、鍋料理)は日本のオジヤになったのではと思う。

ヨーロッパでは市場を描いた生活画が結構あるが、サルがお客に乗っかってノミを取っている露店の油絵を見たことがある。順番待ちでお客が並んでいる。ノミ・シラミが多かった不潔な時代には必要な店だったのだろう。ああ、これかっ!と思わず膝を叩いてしまったが、「蚤の市」の語源である。フリーマーケットと訳して、フリーをFREE(自由)と誤訳しているが、本来は発音の異なるFLEA(蚤・ノミ)マーケットなのである。海外ではチップを渡すことが多いが、チップの発音ではCHIPになって、カケラやつまらないもの、ポテトチップスの意味になる。TIP(ティップ)と発音しないと通じない。「To Insure(保険)Promptness(迅速)」の略で、心付けを渡すことでサービス便宜を図ってもらうことだから前もって渡すのが効果的となる。

旅は面白いが、ヨーロッパの石畳を歩き続けるのは結構しんどい。旅は股ズレ、余は情けない。